

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2015年9月1日 144号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



各々国旗を手に、11ヶ国から来た青年ボランティアチームは、優れた主体性と協調性を見せた。（7月18日、レダ基地公館前庭）

## 国際奉仕チームが見せた主体性と協調性！

先号でお伝えした、国際ボランティアチームの続報です。このプログラムは、第一回 “Pathways to a Sustainable Future Project”（持続可能な未来への進路プロジェクト）として、七月六日から十一日にかけて実行され、11ヶ国から36名のボランティアが参加しました。主催したのは、米国に国際事務局を置くUniversal Peace Federation (UPF) および South & North America Sustainable Development World Peace USA Corporation（邦訳未定）です。

ボランティアたちはそれぞれの国が、アソシシオンに集合し、オリエンテーションを受けて班を編成しました。まずメノー教団の築いた内陸の都市ローマ・プラタにバスで移動。開拓の歴史を学んで感動した隊員の書いた感想文は、後にABC新聞社を通し、ラジオ放送で朗読されました。その後、予想外の大雨で道路を走れなかつたため、小型プロペラ機で四名ずつレダ基地にピストン輸送しました。先住民の村エスペランサでは、校舎の修理、教室の机20台の贈呈、そして生徒たちと文化・スポーツ交流、ニームの植樹などで奉仕しました。ここでは特に子供たちとの出会いがボランティアたちの心に深く刻まれました。またペレス校長は、教師、父母、生徒を代表して、ボランティアと南北米福地開発財団およびそのすべての支援者たちに、心のこもった感謝の言葉を述べました。（三面に謝辞全文）

レダ基地に戻り、中田所長より開拓の理念と歴史を学び、敷の整地作業などで手にマメをつくりながら開墾の苦労を実感。さらに芋掘り、乗馬、釣り、動物とのふれあいも体験しました。レダの過酷な環境下で、荒廃していた土地を福地化して来た諸先輩の開拓精神とその成果に感動し、未来へのクリアな希望を描けるようになつたと語っています。アスンションに戻つて老人ホームを慰問したとき、偶然居合わせたフランコ前大統領夫人と出会いました。青年たちは歌やダンスなどで思いを表現し、お年寄りたちにとても喜んでもらい、同夫人の胸を打ちました。（二面に写真）



乳しぼり体験、手ほどき中。

豚ランドの餌やりタイム、鐘の音に大集合。

可愛く見えるか、美味しく見えるか？



歌とギターでエスペランサの村人たちを魅了。



村人同様に慕われる。



僕の新しい弟です、よろしく。



薮を切り開いて開拓の苦労を追体験、木にトゲ、手にマメ。



校舎の壁にペイントを塗る、そして絵を描く。



タロイモの根はこんなに深いのね。



タロイモの水田で収穫作業 芋は洗って皮を剥ぐ。



固い土に植樹の穴を掘る。

**ボランティアたちの感想文より（抜粋）**

● エスペランサ村の人々の純粋さに驚きました！豊かな物質世界に惑わされない、ピュアな心に触れました。マリア（オペラ歌手研修生）が披露した歌声に村人がジッと聞き入っていたの見て、天国を感じました！別れには何故か涙が止まりませんでした。支援してくれた両親に感謝したいです。（女・17）

● エスペランサ村で子供たちと交わって、今まで味わったことのない感覚、既成概念にとらわれない体験をしました。レダで少しの労働に携わり、過酷な開拓の苦労を知り、日本の先輩がそれを16年も続けて来たことに驚きます。他のメンバーも一度は行くべきだと思います。ここには未来がある！（女・31）

● エスペランサの子供たちは、私を無条件に受け入れてくれました。あの子たちとのふれあいを通して、私はかつてなかつたほど深く神の愛を経験しました。神様の愛が私にとつてとてもリアルになつたのです。（女・18）

● 子供たちは、私たち一人ひとりに、あたかも村の一員であるかのように話しかけてきました。私にとつては厳しい環境に見える地で心豊かに生きている姿を見て、私は自分の国での生活に今まで以上に感謝できるようになりました。

中田先生は、私たちをいつも「王子様、王女様」と呼ばれました。それは、私たちに希望を持つおられると同時に、伝統精神を未来に伝えておられるのだということを感じました。（女・23）

● 海外で兄弟姉妹たちとともに奉仕活動をするのは、とても心が満たされます。僕の心を最も強く打つたのは、驚愕すべき環境下で、日本のお兄さんたちが、人生を捧げて地獄を天国に変える仕事をしていることでした。（男・26）

## エスペランサ校長から感謝状

エスペランサ、二〇一五年七月

教育を通してその人を変え、生活の向上を目指す

指すことはエスペランサにおけるこの教育機関で職につくに当たつて、教育者として与えられた使命の一つであります。

しかしながら、この挑戦は簡単な任務ではありません。また私たち教師だけで出来ることではありません。私たちの国、特に私たちの地域の子供、青年、大人の教育の質に責任を持つとする様な機関の援助がなければ出来ません。

しかしながら、神様の思し召しによつて、いも南北米福地開発財團が変わりなく私たちの

支えとなつて下さり、社会に対するその尊い歛  
身と責任の姿勢を持つて、私たちのコミュニティ  
において教育の強化の目的のためにあらゆる種  
類の援助を惜しみなくしてくださいました。

財団がこの学校のためになされた援助は、教育や学習の良きプロセスの向上のために図りきれない価値をもたらしました。たとえば、広くて快適な三つの教室のあるこのレンガ造りの建物を今日使うことが出来るのも財団のおかげです。また、今回、この学校をとても美しく改装してくださったことは誰の目にも明らかでしょう。学校の内外の塗装を新しくしてくださり、学校の校庭を金網で完全に囲つてくださり、その他にも多くの内容を財団の人たちはしてくださいました。

ペレス校長 (44)



それ故、学校に闘  
わるもの一同・校長、  
教師一同、父兄一同、  
生徒一同、皆さんの  
非常に尊く価値ある  
援助に対し心より  
感謝いたします。



地球環境問題を説明する巨石講師（8月1日）

会の戸石文夫理事による「こゝまで来た！地球環境問題」、国際協力青年奉仕隊員として活動

地球の未来へ希望を共有する研修会

（注…南北米福地開発財団は、パラグアイ共和国における当会の法人登録名です。）

エス・ペランサ学校長  
パブロ  
(注:南北米福地開発財団  
る当会の法人登録名です。)

私たちの心の奥底から南北米福地開発財団に常に神様の恵みがあることをお祈りいたします。そして教育によつて人を変え生活の向上を目指すというエスペランサにおける使命の遂行にあたりなく支援してくださることをお祈りしながら、感謝を込めて。

また、私たちの心の真底から財団の理事並びに会員の方々、世界のさまざまの場所から援助をするために来てくださったボランティアの皆様、この尊いプロジェクトを企画、実行してくださった責任者の皆様、またエスペランサのインディヘナのコミュニティの教育の質の向上のために献身的に援助してくださいとするすべての人々に感謝致します。

した和田泰徳さんによる体験的プレゼンテーション、柴沼邦彦理事による「バラグアイ・レダにおける理想郷建設」そして最後に三人の講師を囲んでグループごとに懇親会が持たれ、質疑応答と意見交換が活発になされました。

当会の16年を超える歩みを通して得られた経験・知識・様々の成果などは、南米のみならず日本と世界の資産として、共有されるべきものなので、今後も着実に継続してまいります。次回は、十一月二十一日（土）、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催の予定です。（四面に参加者の感想文）



グループごとの懇親会で、親しく意見交換する参加者たち（8月1日）

# 第八回パンタナール一日研修会参加者の感想文より

(八月一日、研修会終了時に提出)

- 先輩の方々の開拓精神に心より感謝申し上げます。

未来に希望をつなげてくださったこの精誠をありがとうございます。久しぶりにとても新鮮な気持ちを味わいました。(58歳、女性)やつぱりレダの魅力は尋常じやない。自然の美しさはもちろん、レダの地に込められた希望

の光を感じてどうしようもない。まだその希望の光はない。つまづきとは見えていないけれども途方もない可能性に心の衝動を禁じ得ないほどだ。レダは「南米のへそ

であり、子宮である。だから南米全体を生かす役割がある」といった言葉や「自然を保護し、最高の観光地及び教育現場になる」といつた言葉を聞いてしまったら、どんなに大変でも一生懸命

私たちが派遣する青年奉仕隊も、できるだけ多くの住民に奉仕できるよう、引き続きご支援をお願い致します。皆様が使い残された、はがき、年賀はがき、書き損じはがき、未使用の切手などを下記の事務局でお送りください。また支援金も感謝してお受けいたします。

支援金送り先：郵便口座 記号 一〇一八〇 番号 七七六八〇四七一 南北米福地開発協会



飯野貞夫講師

たいという思いが込み上げてくる。(23歳、男、第13回青年奉仕隊 参加者)

● 何もないところから少人数で可能性のあふれる地にしたのはすごいと思いました。私もこのような活動を通して世界や人の役に立つ人間になりたいと思いました。(22歳、男)

## 第十五回国際協力青年奉仕隊活動へのご支援を、引き続きお願い致します！

今年の第十五回国奉仕隊一行は、八月二十五日に羽田空港より出発しました。活動地は、パンタナール地域のバイア・ネグラです。先に現地を視察したスタッフによれば、学校舎や机・椅子の修理のほか、この地方唯一の小さな病院も修繕が滞っています。院長は若い女性医師で、海外留学後、故郷に戻つて貧しい医療環境にある人々に献身的に尽くしています。



和田泰徳さんは第13回青年奉仕隊での体験を報告。

## 一般社団法人南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人南北米福地開発協会

メールアドレスが変わっております！

(新) Eメール：office@asd-nsa.com

(新) ホームページ：<http://asd-nsa.com>

## 会員種別

♠会員一口1000円／月 ※口数は申込者が申告

♠特別会員一口1万円／月 ※口数は申込者が申告

♠法人会員一口1万円／月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行 00290-5-113072

加入者名：(シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。  
また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.docx>